

2013 7/9

No.1950

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



ライトアップされたアジサイが楽しめる箱根登山鉄道「夜のあじさい号」の試運転が6月20日、行われた。沿線の箱根湯本—強羅間(8.9^{km})には約1万株が咲き誇り、闇夜にライトアップされた幻想的なアジサイが浮かび上がる。運行は6月28日から7月7日までで要予約。



contents

視点・点描	3
創業者の「再登板」に注目	
政治	4
参院選、傍観は許されず 信頼できる候補選びを	
国際	6
アベノミクスの影響、韓国にも 輸出減と外貨流出の懸念	
国際	8
自転車シェアリングが拡大 米国の大都市でブーム	
企業最前線	10
手間なし商品花盛り 調理や家事のキーワード	
くらし2013	12
献血離れ 100万人分が不足	
広告珍談	14
～うまい物がたり⑱ 千利休の水	
NNAアジア経済レポート	15

事務局だより

◇横浜定例講演会

2013年7月18日(木)

13時30分～15時

ベイシェラトンホテル&タワーズ

講師は政治ジャーナリストの
未延 吉正 氏

演題は「参院選直前！ 選挙
予測と安倍政権の今後～どう
変わるニッポン」

◇横浜定例講演会

2013年8月7日(水)

13時30分～15時

ホテルキャメロットジャパン
講師は慶応大学環境情報学部
准教授の 大木 聖子 氏

演題は「東日本大震災とこれ
からの地震災害」(仮題)

視点 点描



創業者の「再登板」に注目

ここ数年、仕事が休みの土・日曜日に、自宅でCSデジタル放送を視聴する機会が多くなった。野球やサッカー、ラグビーなどの試合が、開始から終了まで全て放映されているからだ。

なかなか試合観戦に訪れることのできないスポーツファンにとって、とてもありがたい中継である。筆者も恩恵を被る一人だが、「二刀流」で注目を集めるプロ野球・

日本ハムの大谷翔平投手が登板した試合では、テレビの画面に夢になって見入ってしまった。

びっくりしていることが一つある。放映の合間に流されるコマーシャル(CM)の大半が健康食品のPRであることだ。長寿社会を迎え、国民の関心が高く、宣伝効果も大きいのだろう。

ダイエットをはじめ、若々しさの維持、二日酔いの解消などさま

ざまなサプリメントが紹介されている。「とても効果があった」という出演者の体験談を聞き、期間限定で商品が割り引きされていると、思わず購入したくなるが多々ある。やはり、CM効果はあると感じている。

サプリメントという言葉を国内に広く知らしめたのが、横浜市中区に本社があるファンケルだ。「いっぱい食べる君が好き」のCMと商品「カロリミット」を販売している会社と言えば、誰でも分かるだろう。

ベンチャー企業として名をはせたファンケルだが、2013年3月期連結決算では、売上高が前期比6・1%減の828億700万円、純損益は21億9300万円の赤字だった。最終赤字は198

0年の創業以来初めてで、この状況を打開するため、創業者の池森

賢二氏が代表取締役会長として、経営体制の中心に復帰し、事業改革を陣頭指揮している。

池森氏は「ベンチャー企業と言われたファンケルだが、ここ何年も新しいビジネスモデルが生まれていない。『もつと何かできるはず』という経営理念が希薄化している」と赤字の要因を分析。「創業の精神に立ち返り、お客さまの視点に基づいた『ファンケルらしい』経営を実現する。新しいことに果敢にチャレンジしたい」と意欲を見せている。

しばらく経営の中心から離れ、外部にいたことにより、新たに感じたもの、発見したものもあるのではないか。76歳になった創業者の「再登板」とその手腕に注目したい。

(神奈川新聞社経済部長

石曾根 剛)

千利休の水

京都郊外の山崎とは、天王山が淀川へもっともせり出した場所を意味するという。

山崎は、桂川と宇治川と木津川が合流する地点。それぞれの水温の差は、ふんだんに霧を発生させ、天王山をやわらかくつつみ込む。

山崎は清らかな水が湧き出し、かつて「水生野」と呼ばれた。鎌倉時代、後鳥羽院の離宮・水無瀬殿があり、「見渡せば山もと霞む水無瀬川、夕は秋と何思ひけん」（新古今36）と詠まれ、水無瀬神宮がその跡地に造営された。

石清水八幡宮の別院・離宮八幡宮近くに、臨濟宗の古刹・妙喜庵がある。俳諧の祖、山崎宗鑑の草庵を寺に改め、書院や庫裏はそのころのものという。

風雅な境内に茶室、「待庵」が

たたずむ。1582（天正10）年、豊臣秀吉の命を受けた千利休が造った茶室。利休作として知られる現存する唯一の遺構、国宝である。こけら葺きの切妻造り丸太の柱。荒壁にかこまれ

たわずか二畳。まさに侘びさびの空間である。

秀吉がたびたび訪れ、利休は茶を献じたという。秀吉が草履を立てかけたであろう、大振りのにじり口。その手前に置かれた飛び石も、当時のままといい。後世、い

くつもの写しがつくられたほど、利休好みの貴重な茶室である。

利休が茶室をかまえるほど、山崎の水は良質であることは言うまでもない。

そこに着目したのはサントリー前身である、寿屋を創業した鳥



和4）年、国産最初のウイスキー「白札」が発売された。上がその広告、

「醒めよ人！ 舶来盲信の時代は去れり。酔はずや人、吾に国産至高の美酒、サントリーウヰスキーはあり！」と、鳥井の自信に満ちたコピーである。しかし、煙くさいと売れ行きはよくなかった。イギリスをはじめ、欧米の樽材は「森の王さま」と呼ばれるオーク。鳥井が選んだのはコナラ属の一種。毎年、仕込むために資金切れ。山崎の貯蔵庫に、1931年の樽は欠番という。鳥井は思考をくり返し、1937（昭和12）年、「角瓶」を発売。ロングセラーになった。

やがて戦争。ウイスキーが眠ったままの樽は、山に横穴を掘って避難させた。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）
（図）＝サントリーウヰスキー発売の広告・1929（昭和4）年